



新工場の完成予想図(大垣精工提供)

大垣精工が新工場

金型とプレス、9月完成

環境車部品増産に対応

精密金型製造の大垣精工(大垣市浅西)は、金型工場とプレス工場を本社西隣に新設する。ハイブリッド車(HV)や電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド車(PHV)、燃料電池車といった環境対応車用の部品増産に対応できる超精密鍛造部品の設備を増強する。売上高2割増の50億円を目指す。

新工場は、金型工場が延べ床面積729平方メートル、プレス工場が同1432平方メートル。150〜200トンの大型プレス機を計6台導入する。設備投資額は10億円。2月に着工し、9月上旬に完成する予定。世界で環境対応車へ移行が加速しているほか、電子部品も冷間鍛造部品の需要がアジアやヨーロッパで増加しており、工場建設によって受注拡大につながる。上田勝弘社長は「当社は今年、創立50周年を迎える。さらに社会

に還元できる会社になっていきたい」と話している。